

平成21年度第2回岡山市総合政策審議会 都市・交通部会の会議概要

- 1 日 時 平成21年8月24日(月) 9:32～11:00
- 2 場 所 岡山市職員研修所3階研修室
- 3 出席者 委員14名中11名出席
岡山市：白神都市整備局長、中村都市・交通・公園担当局長、
尾崎下水道局長、柏内統括審議監、
岸審議監(都市・交通・公園担当、公共交通政策推進担当)
時松審議監(土木担当、都市基盤づくり担当)
植田審議監(都市建築担当、住宅政策推進担当)
吉原審議監(建設担当)
中山街路交通課長、尾藤計画調整課長
事務局：友實次長ほか
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議次第
 - (1) 都市整備局長あいさつ
 - (2) 議 事
 - 岡山市都市交通戦略について
 - 岡山市特定環境保全公共下水道事業(御津中央処理区)の事業再評価について
- 6 主な意見

岡山市都市交通戦略について

(概要説明)

今年4月17日開催の当部会において、岡山市都市交通戦略素案についてのご意見の中で目指す姿が分かりづらいとのご指摘をいただいた。ご指摘を踏まえ、目指す姿をわかりやすく表現できるようにできる限りの手直しをしたので、再度ご意見をいただきたい。(岡山市都市交通戦略(素案)の概要版により説明)

(意見) 表町商店街の路上を使った自転車駐車スペース設置などの社会実験をされたが、とてもよい取組みと思うので、実験だけで終わるのではなく、いいことは続けていただきたいと思う。

(意見) バリアフリーのことだが、歩道のちょっとした段差でも、車椅子や目に障害がある方は非常に危険なので、弱者の立場に立って考えていただきたい。

(意見) 自転車の専用道路だが、バス停との関係で危険なところがあるので、今後の整備においてはその辺の配慮をお願いしたい。

(質問) 道は本来人の道だったわけで、いろいろな世代が歩いて楽しい道づくりというような、もっと人中心の道をつくっていくということを 「岡山市にふさわしい交通」の項目の中にも標榜する必要があるのかなという気がする。

それと、今ある道をどういうふうにしていくのか、21世紀の新しい道づくりというのを考えるということ、どこかこの中に位置づける必要があるという気がするが、どうか。

(回答) 70万人を超える政令市岡山ということで、当然いろいろな交通手段が必要になるわけだが、自動車に依存した交通体系から脱却し最後は都心部が人で賑わって、歩いて楽しい空間になるということを将来の大目標として考えている。

検討部会の方にもご意見があった旨、報告をさせていただきたいと思う。

(意見) 都心のトラフィックゾーンだけでなく、健康志向の中で、郊外においても人の歩ける道が整備されてくるといいなと思う。

それと、トラフィックゾーンの構築をやろうという姿勢は見えるが、10年経っても可能性を検討する事業であって実施することにはなっていない。せっかくの交通戦略であるのなら、10年先にはやるぐらいのことにしないと、どんどん置かれていくと思う。

(質問) 公共交通を中心として、中心部は基本的には人の空間というのでいいと思うが、車はどの範囲まで入れるのかという辺も明確にしておく方がよいと思うが、イメージを教えてください。

(回答) 基本的には中心部の縁辺で止めて、都心部の環状公共交通に乗りかえるイメージをもっている。

(質問) LRTだが、今の路線以外の路線は考えられるのか。

(回答) プログラムの中に吉備線、市内環状化などを挙げている。この戦略では、岡山市はLRTがふさわしいということを示している、将来それにふさわしい路線、ルートを選択できればと思っている。

(意見) 欧米に比べて、LRT事業化に当たってのインフラ整備支援が非常に少ない今の段階で岡山じゅうにLRT網を張りめぐらせるというような構想はなかなか難しいのではないかと思う。将来的には日本の交通整備制度も変わってくると思うので、それをにらんだ形の戦略ということになると思う。

(意見) 環境問題についても書かれているが、もう少しグローバルな視点での都市環境のあり方、岡山市のあり方というようなものを訴えてもいいのではないかという気がする。

(部会長) 各委員のいろいろなご意見を伺って、一応、提案されている基本的な戦略の全体像は大きく間違っていないと思う。ただ、環境の問題にしても、LRTの導入にしても、やはり不確実性が伴ってくることも間違いない。現段階での交通戦略として方向性を持ったということ、それをまず認めたいと思うが、それには不確実性が伴ってくるので、柔軟に

最もいい形に改良することを条件にさせていただきたいと思う。

もう一つ、この基本方針にしたがって実際に推進していくのは、行政だろうと思うので、市がもっと前面に出て、場合によってはかなり指導力を出すべきだろうと思う。絵に描いた餅にしないよう是非きちっとやっていただきたいと思う。

(意見) 行政は、法律の中で考えるという発想になるのはしょうがない部分があると思うが、全体にとってどういう形がいいのかというのを、どれだけ明確に打ち出せるか、その辺をアピールすることによって、法律をも変えるぐらいの意気込みを持ってやってほしい。

(部会長総括)

それでは、またいろいろなところで状況が変わってきたら、そこでいろいろと検討することがあるかと思うが、こういう新しい戦略を部会として了解したということにさせていただく。(「異議なし」との声)

岡山市特定環境保全公共下水道事業

(御津中央処理区)の事業再評価について

(公共事業の再評価についての説明)

事業の再評価は、公共事業の効率性及び透明性の一層の向上を図るため、事業開始後、10年を経過して継続中の事業や事業採択後5年を経過した後も未着工の事業などを対象に実施するものだ。

再評価の流れだが、市は、該当事業について国土交通省及び市の実施要領により再評価を行い、現行計画の継続、事業の見直しなどの対応方針を決定し、この対応方針について、学識経験者などで構成される第三者委員会の意見を聴くこととなっている。他市町村と同様に岡山県の第三者委員会を利用していましたが、政令市移行に伴い、当部会においてご意見をお聴きさせていただきたいと考えている。

当部会においては、市の再評価の対応方針について適正に評価がなされているかをご審議いただき、不適切な点または改善すべき点があると認められた場合には、意見の具申を行うことになり、市は意見の具申があったときには、これを最大限尊重し、最終の対応方針を決定することになる。

(当事業の再評価の対応方針等)

・事業採択後10年間を経過した時点で継続中の事業

事業名 岡山市特定環境保全公共下水道事業

箇所名 御津中央処理区

位置 岡山市北区御津金川地内ほか

工事概要 全体計画区域 87.0ha

計画処理人口 3,120人

計画汚水量 1,800m³/日(日最大)

事業費 47億円

事業期間 平成12年～平成30年

対応方針 現計画を継続

対応方針決定の理由

費用便益分析結果が1.77と良好で、事業も進捗率85%と順調に進んでいる。また、生活環境の改善、公共用水域の水質及び自然環境の保全などを目的とした事業であり、地元住民の要望も強く、早期の整備が望まれていることから現計画を継続する。

(意見) 今後、再評価以外に事前評価もやるということではいろいろ出てくると思うが、この部会でやるということではよろしいのでしょうか。

(事務局) お願いしたいと考えている。

(部会長) 政令市になって当部会を使うということだが、今意見があったように今後いろいろ出てくると思うし、非常に重要な案件なので、事業評価委員会を設置してした方がいいのではないかと気がする。

(事務局) ご意見を踏まえて今後検討してまいりたい。

(質問) 平成12年度に事業採択された後、計画完了年度が平成30年で、事業費が47億円だが、この金額は、地形的な条件とかいろいろあると思うが、他の事例から見て妥当な金額と言えるのかどうか、もう少し具体的に説明してほしい。

また、費用便益分析で1.77という数字が出ているが、これは標準的にどのようなものなのか説明してほしい。

(回答) 下水道事業は非常に長い年月がかかるものですが、当事業は現在10年経った段階で約85%進捗しており、概ね順調です。事業費については、旧岡山市などの事業と比較して、処理場もあるが、安い方です。

費用便益分析結果ですが、妥当なものは1.0以上です。

(質問) 平成12年から30年までの事業で、10年経って85%できているが、この数字はどのようにして算出されたのか。認可面積87haのうち82haを整備しており、相当進んでいるような気がするし、一方で御津処理施設は全体の2分の1ができただけが、あとどこで何が残っての85%になっていて、これは計画どおり進んでいるのか、その辺りの補足説明をしてほしい。

(回答) 進捗率85%は事業費ベースで算出しており、残っている事業として、面的な下水管整備事業が5haほどと、比較的少額だが処理場工事の2分の1が残っています。

(質問) 総事業費47億円で、現在の費用が再評価時点で73億円となっているが、これらの関係について教えてほしい。

また、便益の部に計上されている水路は蓋をすることか、これで59億円ということになっているが、どういう意味での便益なのかも教えてほしい。

(回答) 事業費は、金利とかを含めて現在の価値に置き換えて、維持管理費も含めて73

億円と算定しています。

便益についてですが、便益の算定として下水道を整備しない場合に要する費用を主に算定項目として挙げており、水路の履蓋化は景観や悪臭とかの対策をしないといけないということで、区域内の排水路全てに蓋をかけるものとして算定しています。

(部会長) ほかにないので、当部会として、対応方針の「現計画の継続が妥当である」という結論にしたいと思うが、よろしいか。

[異議なし]